

ウンカ類情報第1号

令和4年7月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

近隣県でトビイロウンカの誘殺が確認されています セジロウンカの発生量は平年並です

1 トビイロウンカ及びセジロウンカの飛来解析結果

日本植物防疫協会提供の飛来解析によると、本県へのトビイロウンカ及びセジロウンカの飛来に適した気象条件は、6月末時点で6月15日、6月22日、6月25日（2回）の計4回出現しています（図）。

2 トビイロウンカ

6月下旬の本田調査では発生を確認しておらず、予察灯においても誘殺されていません。しかし、静岡県島田市の予察灯で5月下旬及び6月中旬に誘殺が確認されているほか、奈良県桜井市で6月10日及び6月18日に誘殺が確認されています。

これらの状況から、本県においてもすでに飛来している可能性があります。ほ場での発生状況に注意してください。

3 セジロウンカ

予察灯における本種の誘殺は確認されていません。

6月下旬の本田すくい取り調査において、96ほ場中5ほ場で成虫が捕獲されました。また、本田払い落とし調査において、100ほ場中2ほ場で成幼虫が捕獲されました。捕獲虫数はいずれも平年並です（表）。

ほ場ごとに発生量が異なると考えられるため、ほ場をよく観察し、発生量が多い場合は防除しましょう。今後、斑点米カメムシ類の防除時期に入りますので、同一薬剤の連用にならないよう計画的に薬剤を選択しましょう。なお、本県で栽培されている「あいちのかおり SBL」や「あさひの夢」はセジロウンカ殺卵反応（注）が弱い品種であるため、注意をしてください。

（注）セジロウンカの産卵によって殺卵物質が生成されるイネの生体防御反応

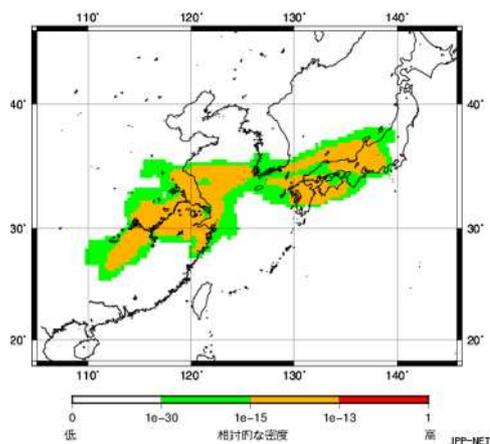


図 ウンカ類飛来解析図
（6月25日10時）

提供：JPP-NET

表 セジロウンカの6月下旬本田調査結果（1ほ場当たりの平均捕獲虫数） 単位：頭

調査方法	成虫	幼虫	計
捕虫網による20回すくい取り	0.07 (0.05)	0 (0.01)	0.07 (0.07)
水稻10株の払い落とし	0.02 (0.02)	0.01 (0.09)	0.03 (0.12)

（ ）内は、平年値（平成24～令和3年の平均）